

南多摩高次脳機能障害支援センター主催

平成26年度 第1回高次脳機能障害支援セミナー(高次脳ゼミ)

高次脳機能障害者と家族への理解と支援
「人間らしく生きる権利の回復」のために

上田 敏 先生

アンケート結果

開催日：2014.0907 於京王プラザ八王子

事前申込み：146名 アンケート回収率92%

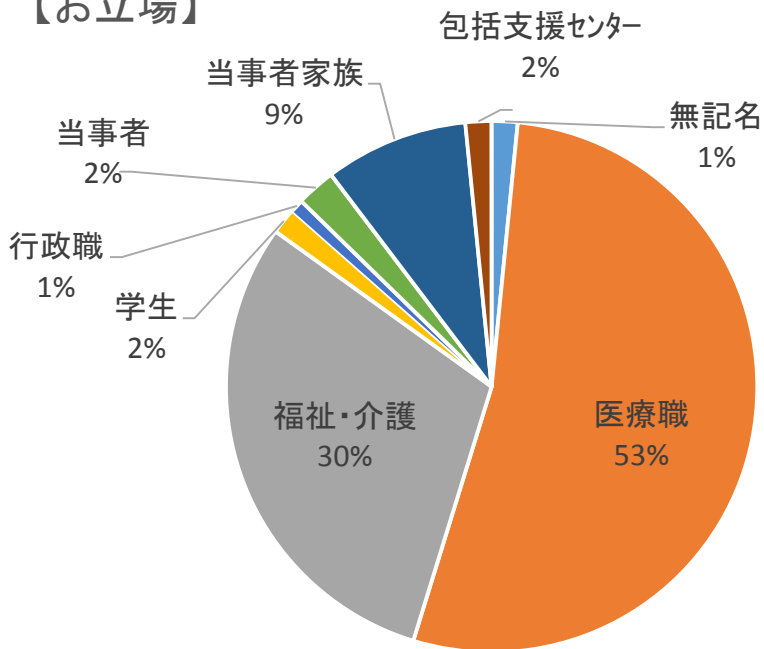
当日参加：9名

欠席者：18名

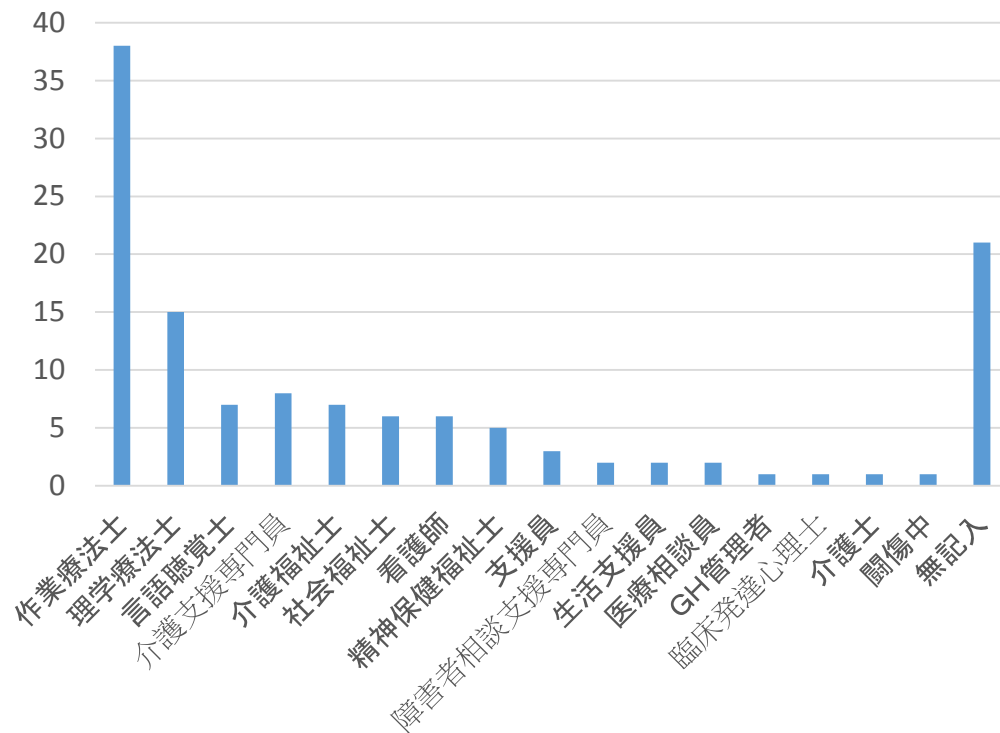
全受講者：137名

スタッフ+講師：17名

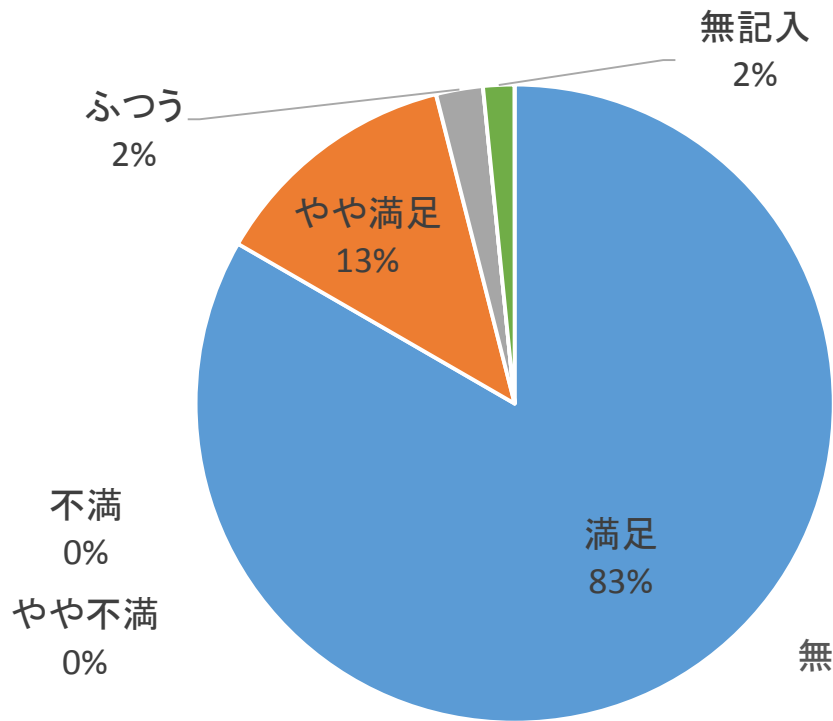
【お立場】



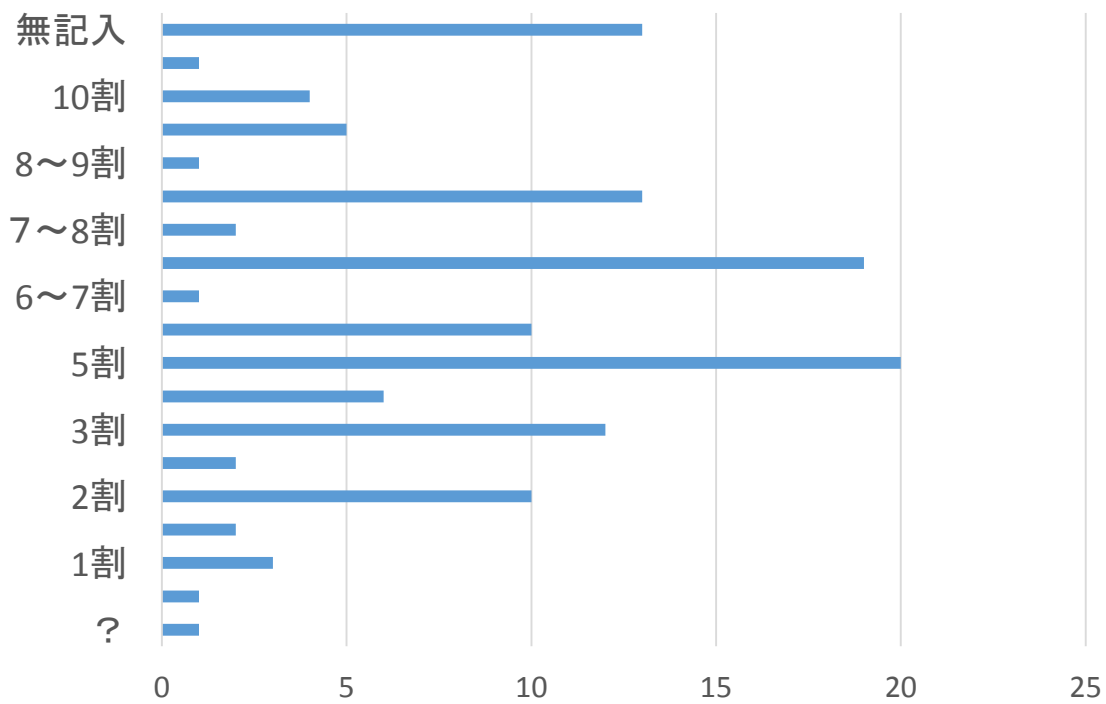
【職種】



【Q1. セミナーの内容はいかがでしたか？】



【Q2. 初めて得た知識の割合は？】



【Q3.心に残った一言がありましたらご記載ください。】 NO1

- 「生活・人生を良くする」のがリハビリテーション ➤「プラスがプラスを生む」良循環
- 医療介護だけでなく、福祉介護方面でも高次脳機能障害は治して行ける事となっています。
- 「上から下へ」「プラスを増やすことがマイナスを減らすことにつながる。
- 「マイナスがマイナスを生む。プラスがプラスを生む」「頑張れではなく、頑張ったね」
- Bさんの奥さんの言葉「ゆったりと今の私たちに出来ることに挑戦」ゆったりとかまえられる事の大切さを感じています。
- 症例となった人は、今どうしているのか現在をみたい。長く気にかけておられるのだなー、誠実さが心にしみました。
- 「下から積み上げる」「本人は静かに絶望と闘っている」
- リハビリテーション裁判、人間らしく生きる権利の回復
- リハビリとは「人間らしく生きる権利の回復」であること。私は、福祉の勉強を主にしてきましたが、どのような分野であっても核となる部分は同じなのだと思います。
- プラスを増やす。上から下へ。
- 「プラスを増やす」「上から下へ」
- プラスを見つけ増やす
- 参加が一番の要であることに気づきました。
- 「プラスを伸ばす」わかっていたつもりですが、症例報告を通して改めて気づきました。
- 参加が一番重要ということ
- 事例について
- 人間らしく生きる権利の回復
- 「プラスを増やす」「人生レベルを上げる為に、他のレベルがある(活動・心身機能・構造)
- 人間性の回復、高次脳機能障害者の解決は、上から下へ
- 「ようするに～」
- リハビリテーションとは「人間らしく生きる権利の回復」
- 個別に対応する
- 「こんなことは受容とはいわない」何をもってしてゴール設定を行うのか常に迷っているので、とても心に残りました。
- 参加を人生レベルとおっしゃっていた点
- リハビリテーションとは、生活・人生を良くすること
- できることを見つけて、プラスの面を活用する、一人静かに悩んでいることがある
- 「上から下へ」
- パラダイムはシフトしておらず、本来を気付いた。

【Q3. 心に残った一言がありましたらご記載ください】 NO2

- 終わりの言葉にある、「高次脳機能障害者本人や家族の心の悩みを理解し、暖かく支え、社会参加の場を力を合わせて作っていきましょう。それが本当のリハビリテーションです。」「障害をもって、人間らしく生きることができる社会こそ、万人が幸せに生きられる社会ではないでしょうか」
- 人生レベルをよくする
- 「参加制約があることこそが障害」「解決の方向は『上から下へ』」
- ”上から”
- 「上から下へ」と活動することによって自信を取り戻し、余裕が生まれ生活全般のレベルも向上する。
- ボトムアップなアプローチだけでなく、その方に応じてトップダウンの関わりが有用であることに気づくことができ、明日からのリハビリに活かそうです。また事例Bの方の奥様のお手紙も大変心に残りました。
- リハビリテーションは、人間らしく生きる権利の回復。その人にとっての心の平安。
- 下から上ではなく、上から下
- 「プラスを増やす」「上から下へ」
- (ICF)について、私は右から説明します。参加が一番大切だから。
- Cさん70才の事例から。本人の思いを聞くことで、「プラスを見つけて評価する」
- 「マイナスを減らす」ことよりも「プラスを見つけ活用し、増やす」
- リハビリテーションの意識が変わった。
- 周囲が変われば、ご本人が変わる
- プラスをほめる 子育てと同じ…。考えさせられました。

- 「人間として理解する」ことが大切
- “参加”と”全人的復権”
- 上から下へ プラスの増大
- プラス面が断然豊富
- 「頑張り」ではなく「頑張ったね」 プラス面を活用し、マイナス面を補う
- 家族の受け止め方で変わることがある
- 参加から支援を考えていく事

- プラスを増やす。上から下への解決を。
- プラスの増大、マイナスの減少。高次脳機能障害のころ。
- 理解しやすかった

【Q3. 心に残った一言がありましたらご記載ください】 NO3

- リハビリテーションは、当初から社会復帰という意味で使われていたということ
- (ICFで)参加が「目的」活動が「手段」、心身機能は「要素」である。
- リハビリテーションとは、人間らしく生きる権利の回復である。高次脳機能障害の解決の方向は、「上から下へ」
- 高次脳機能障害の方の「こころ」を具体的に知ることができ、良かったです。
- 人間らしさ、その人らしさ
- 元気な頃との落差
- 「プラスを増やす」「上から下へ」今後利用者の方と関わる上で、忘れないように心に留めておきたい言葉です。
- 人間らしく生きる権利の回復 「全人的復権」
- 本人にアプローチしなくても、家族が変わったら本人が変わった
- 障害があっても周囲の人の考え等で変わる。参加することが大切。
- 上からアドバイス、目標をもつ！
- 「上から下」
- いちごえ会、相談会のお話しの中で、「精神科医ではない！あたってくださる」で本人と話しをした時の先生の言葉が印象に残りました。
- 「マイナスを減らす」ことよりも「プラスを見つけて活用し増やす」
- プラスを増やすことがマイナスを減らすことにつながる
- マイナスではなくプラス
- 参加
- 本人・家族からの言葉、先生の家族に対する言葉がけ(医師という立場だからこそそのものもありましたが、とてもエンパワメント支援の力を感しました。
- 家庭も社会。目的や役割に目を向けることの大切さ。
- プラス面を活用して、マイナス面をおぎなう。プラスを増やせば、マイナスが減少する。
- 上から治せば、下の部分も治る！参加することを第一に考えよう。
- プラスがプラスを生む。人間として理解すること。
- 立ち直る「頑張ったね」のことばがけを参考に。
- 上から下へ
- 生きがい
- 「上から下へ」の支援(ボトムアップでなく、トップダウンの支援)、プラスを増やす、生かす(人生経験が豊か)、「受容」という言葉を再定義したい。
- 人生レベルを良くするために
- ”人間らしく生きる権利の回復”
- ICF「生活機能モデル」の参加のことの大切さ
- 「プラスを増やす」障害があると、その周りの家族や関わるスタッフはマイナス面に目がいきやすいが、見方を変えることで、本人・家族のこころが変わり、生活が変わることを症例を通じて学びました。

【Q3. 心に残った一言がありましたらご記載ください】 NO4

- 高次脳機能障害の解決の方向は、上から下へ。下から上へというのが常識だと思っていました。
- 参加が大事
- 本人の悩み、心の平安を取り戻すには、どこが大事か！ポイント！！
- 「からだを治す」ではなく、生活機能を向上させ、「生活・人生を良くする」「上から下へ」
- 「上から下へ」
- 「下からの積み上げ」ではなく、「上から下へ」の解決を。目標・目的を患者さんと共有することで、患者さんのモチベーションも上がり、より主体的に訓練に取り組んで頂けるようになるのではないかと思います。
- 「上から下へ」ということ
- 社会参加を目標として、上から下へ、家族も環境の1つ
- 参加は目的
- 「プラスを増やす」「上から下へ」
- 人間らしく生きることができる社会こそ、万人が幸せに生きられる社会
- 「上から下へ」
- 上からでなく下からせめる
- いちごえ会相談会の事例から、乱暴な言動は、心理的原因だったのではないかとということ(それをコントロールしているのが高次脳機能なので抑制できなかったということ)、家族が変わることでプラスを増やし、結果マイナスが減ったというお話
- 高次脳機能障害の回復は年単位、上から下への関わり、“参加”が最も重要
- 上から(下へ)よくなる。予言
- プラスの増大
- 上から下へ
- ICFにて・・・「プラスの中に小さなマイナスがある」
- 参加を現実のものにする、上から
- 人生レベルでの参加の回復と向上
- 「受容を再定義しないとイケない」ということ
- 「プラスの増大こそがマイナスの減少」という言葉が心に残りました。
- リハビリテーションとは「人間らしく生きる権利の回復」！！能力の回復ではない。
- リハビリテーションとは「人間らしく生きる権利の回復」である。(改めて考え直す機会となりました)
- 「作業所はいつまでも行く所じゃない。学校に行くつもりで行きなさい。」
- 高次脳機能障害の解決方向は、「上から下へ」の「プラスの増大」

【Q4. 高次脳機能障害者の支援において現在どんなことにお困りですか？】

◆仲々の素直な受け取り、飲み込みがきかないことにです。

◆現在は、高次脳機能障害の方との接触がないのですが、他の疾患の方にも支援していく上で活用できる考え方なのかなと思いました。

◆窓口が少ない。支援センターには直接、ご本人やご家族が連絡すればいいのでしょうか。

◆作話、攻撃性のある人、妄想がでてきて精神病院に入院した人もいる。公的な支援がうすいと思っている。

◆スイッチの入れ方、切り方

◆働き出して1年目なので、まず高次脳がどのような障害なのか曖昧だったので、今回理解したことを活かし、支援につなげたいと思います。

◆上田敏先生の患者さんとのつきあい方、診療・診断、御指導ができる主治医が増えて欲しい。夫74才、洋服のボタンのかけ違い、失禁、物忘れ等々、私がイライラすることを治さなければ。

◆家族の負担

◆ご家族に説明する際、どのように話せばわかりやすいか困る時があります。

◆入院患者様に作業療法士として、高次脳機能障害評価・訓練を行っていますが、それが退院後の実際のADL・IADL・余暇・仕事等に活かしていけるのか疑問に思っています。

◆病院で関われる期間が短いことに対して、高次脳機能障害の回復のスピードがゆっくりであること。

◆失語のため意思の疎通が困難である。自立支援を基本とするケアプランの作成にあたり、協働作業に支障になっている。表情・身振りなど非言語的コミュニケーションと家族との意思を基に行っている。

◆年ごとに能力や動作が落ちていくKさんには、今何が必要なのだろうか。スタッフと家族みんなで考え、支援の方法をさぐりたい。

◆突然の怒りのしずめ方

◆復職支援の際、その人の仕事に関する技術・知識がなく、支援しづらい

【Q5. ご感想、お気づきの点などございましたらご記載ください】 NO1

- ▣ご家族の方たちも一緒に参加する講演会であるため、ご家族の方たちが困っていることが聞けてとてもよい機会だと思いました。
- ▣当事者の新社会からの素直な受け取り、月歯み込み適用して行く事で発展に予計に弦がって行く事と思われます。
- ▣高次脳機能障害については、もっと難しいものという認識がありましたが、目的や人生を考える上ではもっとシンプルに考えてもいいのかなと思いました。過去の患者様での不明瞭な部分が、今日のセミナーでつながったように思います。
- ▣高次脳機能障害について、今までで一番わかりやすく教えていただきました。先生の講義が聞けたこと、とてもうれしく思います。
- ▣とてもわかりやすく、楽しく聞くことが出来ました。どうもありがとうございました。
- ▣私の場合は、夫が高次脳機能障害者。上田先生のお話を聞いて再確認。お困りなことは沢山。
- ▣先生のお話がささくで、面白く勉強させてもらいました。老健で働いていますが、利用者様で問題視していた方の中でも、高次が原因にあるのではないかと気づかされました。「その人らしく生きる」ことを大切にしていきたいと思います。ありがとうございました。
- ▣高次脳機能障害から立ち直られた方の例の、具体的な前進あともどり等のお話しに勇気づけられました。
- ▣本人にはたらきかけなくても、Faのはたらきかけで**変わる**ことも良い方向に向くこともあると思いました。一言でこの対応が良いとはありませんが、もっともっと深く高次脳機能障害の理解を深めたいと思いました。ありがとうございました。
- ▣普段、当事者ご家族の話しを聞く機会が少ないため、事前に質問・相談内容をとらえアドバイスを当日具体的に講演されるのもいいかなと思いました。
- ▣高次脳機能障害の方以外でも役に立てられる内容と思いました。特に、仕事の変わりに何かをするということは、その他の疾患の方でもプラスにすることができそうだと思います。
- ▣障害の負の面があっても、できることを見つけて行動することが大切で、自信を持って生きて行くことが必要と思います。
- ▣上田先生のお話を直接聞くことができ良かったです。
- ▣わかりやすく、とても良かった。先生もずっとお元気で！
- ▣改めて欠点だけではなく、その人のプラスを増大させることに着目し、支援していこうと思いました。
- ▣貴重なお話ありがとうございました。事例を交えてとてもわかりやすかったです。
- ▣ありがとうございました。
- ▣素晴らしい講演をありがとうございました。事例を通した説明で気づかされることが多くありました。また携わる者として活かしていきたいと思います。
- ▣とてもわかりやすい講演をありがとうございました。
- ▣何回お聞きしても意義のある講演を上田先生はしてくださいました。
- ▣「上から下へ」の解決方向は、高次脳機能障害以外の障害や疾患を持つ人にも通じると思います。
- ▣とても分かりやすいことばで丁寧にお話しいただき、改めて理解を深めることができました。本当、来てよかったと思える講演でした。ありがとうございました。

【Q5. ご感想、お気づきの点などございましたらご記載ください】 NO2

- ▣”プラス面を活用しながら困難なことを補っていく”というところをはじめとして、改めて高次脳機能障害の方との接し方について考えるきっかけとなりました。大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ▣上田先生が、”症例”ではなく”事例”として紹介されていたことが印象的でした。
- ▣看護学生時代に上田先生の著書を知り、今日生の先生に会えて、ただただうれしいです。思っていたとおりのやさしさが、講演会を聴き人にやさしい、心のある治療・相談にのってくれていることが事例から伺えて、とてもよかったです。私自身も少しでも人の役にたてるよう、より心を込めて仕事をしていきたいです。ありがとうございました。
- ▣とても勉強になりました。ありがとうございます。
- ▣高齢者事例だけでなく、若い方の事例が伺えて、参考になりました。
- ▣ICFの本持っています。ありがとうございました。
- ▣現在、老人保健施設で働いています。高次脳機能障害の患者さんはいませんが……。機会があれば、リハビリスタッフとして関わりたいと思いました。
- ▣企画・準備や、会場設営など、ありがとうございました。若干会場内が暗くメモがとりづらかったです。
- ▣高次脳機能について、再確認ができました。ありがとうございました。
- ▣有意義なお話を頂き、有りがとうございました。
- ▣まったく自分が考えていた事と違う発想を知ることができた。
- ▣楽しい講演でした。有難うございました。家族・当事者と同じ講演をきくということを有意義に感じました。
- ▣もともとリハビリテーションセンターで勤務していたので、今回上田先生の講演が聴講できたことは、本当にうれしかったです。ありがとうございました。
- ▣とてもわかりやすい話で、ICFの理解が深まりました。タメになる話で、明日からの臨床での考え方に生かしたいです。
- ▣これから様々なケースに関わりながら、よりよい利用者支援ができるよう勉強していきたいと思います。
- ▣本人の思いを引き出す事がまず大事で、その様なつきあい方ができるよう支援していきたいと思いました。実際あった事例も教えてくださり、とても分かりやすかったです。事業所で全職員に、先生の思いを伝えていきたいと思います。ありがとうございました。
- ▣とても楽しく、興味深い講演内容でした。ありがとうございました。
- ▣セミナーのテーマから高次脳機能障害へのリハビリの考え方。(参加)目的＝上から下へ(心身機能)が事例を通しての説明がとてもわかりやすく明日からの支援に生かしたいと思います。
- ▣とても勉強になりました。分かりやすかったです。障害と患者に近く、悩んでいる家族へもっとアプローチ出来るようになりたいと思いました。
- ▣事例があり、高次脳機能障害の方が社会へ出て働くには、目に見えない壁があることを理解することができました。ありがとうございました。

【Q5. ご感想、お気づきの点などございましたらご記載ください】 NO3

- ▣勉強で知識はありましたが、とても深く考えるきっかけを頂きました。
自分の担当患者と重ね合わせてとても考えさせられました。ありがとうございました。
- ▣リハビリもマイナス面ばかりとらえがちで、今回の話を聞いてプラス面について考え直してみると、ほとんど思い浮かばない状態で、セラピストとして反省しました。今年新入職で、まだまだ未熟な点が多く、とても勉強になりました。
- ▣人は一人一人が違う社会の中で生きている。これを再度思い返し、自分への新たな反省と目標にしようと思います。
- ▣出来ない所ばかり焦点をあててしまうが、出来ることに着目していくことの重要性を改めて感じました。知らないうちに出来ること好きなことを障害になったことで、その人から取り上げてしまっている気がしました。明日から個性を見ていこうと思いました。ありがとうございました。
- ▣今回の講義をととても楽しみにしていました。自分もOTとして、参加や活動から介入していくことが多いですが、それをさらに一步踏み込んで参加をより考えたりリハビリテーションを考えていきたいと思っています。
- ▣その人らしく個性を大切にしたい『上から』良くするリハビリをいつも心掛けていきたいと思っています。とても勉強になりました。ありがとうございました。
- ▣知ってはいましたが、あらためて考え直した部分は大変多くありました。
- ▣プラスを増やしていくことの大切さがよく解りました。今日勉強会に参加して本当によかったです。とても楽しかったし、さらに高次脳に対し興味が増えました。ありがとうございました。
- ▣今までは障害を少しでも改善させるための、治療手技に目がいきがちでありましたが、最近は障害そのものと上手につき合っていく方法や、本人・家族へのフォローが大切だとわかってきました。先生のお話は、まさにその重要性を再認識させてくれる貴重な講義でした。ありがとうございました。
- ▣身内に脳出血を発症した者がおります。私以外の身内は悲観的なことばかりに終始しています。症状は軽いから、社会復帰を可能にしたいと思っています。
- ▣知っていることは多かったのですが、知識の整理ができていませんでした。
症例をまじえた説明、とてもわかりやすかったです。Cさんと同じような方と接してきました。最終的には家族のころころが変化してきて、怒ることが少なくなりました。もっと早く奥さんにこのようにわかりやすいアドバイスをすることができれば良かったなと思いました。今後に生かしていきたいと思っています。ありがとうございました。
- ▣ありがとうございました。大変わかり易く勇気を頂きました。
- ▣対象者への関わり方や考え方について勉強になった。
- ▣「上から下へ」は明日からでも実践できそうなことなので、早速取り組みたいと思いました。今日は参加させて頂き、ありがとうございました。
- ▣人によってそれぞれの対応があるが、基本や方向性を示してくださったことが、非常に納得しました。
- ▣回復期病棟入院期間(6ヶ月)だけでは、患者様の社会参加までなかなか考えていなかったと反省しました。ついADLばかりに目を向けていました。
- ▣家族が変われば当人も変わる。実際の話が聞けて良かったです。
- ▣過去と現在との「落差」その落差をプラスにむすびつける援助ができれば良いと思いました。

【Q5. ご感想、お気づきの点などございましたらご記載ください】 NO4

▣「初めて」ではなく、バラバラの知識がまとまった感じ。大事な部分を再確認できました。マンネリ化した仕事になってしまう日々ですが、お話を聞くことが出来良かったです。

リハビリテーションの大切な部分を再確認できました。素晴らしい講演をありがとうございました。

▣資料が良かった

▣専門職ではない私たちの様な立場の者にも、大変わかりやすいお話でした。ありがとうございます。

▣Aさんの症状をお聞きすると、遂行機能障害も強く関連していると考えますが、遂行機能障害の根本に、空間障害があるということでしょうか。改めて高次脳機能の奥の深さを感じると共に、その機能障害へのアプローチだけでは真にご本人への支援はつながらないこと、改めて”参加”の大切さを学ぶことができました。

貴重なお話をありがとうございました。

▣リハビリテーションの世界では、リダクシニズムというパラダイムシフトはないと言っていたら、スッキリしました。1980年代に教育を受けたPT・OTは還元主義をひきづっています。

▣今まで機能向上 → 参加のリハビリを行っており、目標設定も機能面重視になってしまいました。患者様の生活へ目を向けたリハビリテーションを行っていきたくとも思いました。貴重なお話をありがとうございました。

▣上田先生のお話伺える機会を持って、幸いでした。今後の支援に役立てていきたくとも思います。

▣大変参考になり、また感銘を受けました。貴重な講演を無料で提供していただき、本当にありがとうございました。

▣リハビリのスタッフとして、考えていくべきポイントがわかってきた気がしました。患者様としてだけではなく、自分としても考えさせられることが多かったです。

▣再度高次脳機能障害について考える、良い機会となったとともにとても勉強になりました。貴重な講演ありがとうございました。

▣参加費無料で質の高い勉強会に参加でき、満足しています。また参加させていただきます。

▣上田先生のご講演及びご家族様の生の声が聞けて、とても貴重な経験となりました。ありがとうございました。

▣なかなか明確な目標設定をして作業参加訓練をしていただくことが出来ていなかったと思います。目標や先が見えない中で努力することは、どんなんでも難しいことです。まずは本人がやりたくなる目標設定を大事にしたいと思いません。

▣事例を交えての講演で、今の自分だったらどのように関わるかなと考えながら受講することができ、とても勉強になりました。